

派遣先所属 宮城県仙台塩釜港湾事務所  
氏 名 吉岡 貴春 (よしおか たかはる)  
派遣期間 平成29年4月2日～平成30年3月31日

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の仙台塩釜港湾事務所では、主に仙台・塩釜・松島港区の外郭施設（防波堤、防潮堤、護岸、陸閘等）、係留施設（岸壁、栈橋、物揚場等）の復旧・復興に関する業務を行っています。平成23年3月11日に発生した東日本大震災は震度7の揺れに加え、宮城県では20mを超える高さの津波により、いずれの港区も甚大な被害を被ったため、これまで担当した職員が、復旧・復興に向け全力で業務取り組んできました。

震災から6年以上経過し、これら3港区の港湾施設、海岸施設の着手率は96%と上がっていますが、完成率は57%と早期の完成が求められているのも現状です。大きな要因としては用地問題と入札不調等があります。

担当している業務は、仙台塩釜港湾事務所の3港区のうちの塩釜港区で、主に岸壁、物揚場の復旧と防潮堤の新設・嵩上げ工事です。宮城県職員、他の都道府県からの派遣職員で工事を分担しています。

具体的には平成26年度～28年度に発注済6件の工事（防潮堤工事1件、物揚場復旧工事1件、陸閘工事4件）の管理業務と設計変更対応、今年度発注する2件工事の設計・積算業務などです。

担当現場はいずれも塩釜港メインふ頭に位置しているため、係留船舶の移動調整の他、港湾利用者、漁協との綿密な打合せも不可欠な上、施工方法の再検討なども求められることから、工事のスケジュールに遅れが生じないように進めています。



塩釜港 岸壁・物揚場の担当現場にて

また、当港湾事務所には他の都道府県からの派遣職員として、東京都、大分県から技術職員が来ています。特に東京都からの派遣職員とは宿舎も同じという恵まれた環境で、お互いコミュニケーションを取りながら協力しています。

## 2 被災地の復旧・復興の状況

東日本大震災の復旧・復興工事に従事して6年目となります(岩手県任期付職員として5年)。街中には大型貨物船が打上げられ、ガレキの処理に追われ風が吹くと土埃が漂っていた6年前と比べると町の様子は大きく変わって復旧・復興を実感できますが、未だ完成率は、当港湾事務所でも60%の状況です。本格復興に向け担当業務の推進に邁進したいと考えています。

ここ数年、今年が工事のピークだと言われてきましたが、完成率から見ると今年度～来年度が本当の意味での最盛期なのではないかと思っています。これからの成果が復旧・復興工事の完遂年を左右するという気持ちで業務を進めたいと思っています。



塩竈港棧橋の防潮堤の嵩上げ工事



塩竈貞山運河の防潮堤工事

## 3 被災地へ派遣となって

宮城県・岩手県への派遣職員として大規模な復旧工事に携わることができたこと。  
何処へ行っても東北の人々の温かさに接し、いやな経験が一度もなかったこと。  
東北5大まつりの他、遠野まつり、花巻まつり等各地の豊かな民族芸能が見られたこと。  
東北の代表的な山(岩木山、岩手山、早池峰、秋田駒ヶ岳、栗駒山)に登れたこと。  
そして東北の代表的な温泉を満喫できたこと。  
これらは、本当に貴重な経験です。



花巻祭りの民族芸能鹿踊り



遠野祭りの民俗芸能鹿踊りのパレード